

Japanese Society for Day Care Treatment  
**日本デイケア学会**

**NEWS No. 18**

日本デイケア学会広報委員会  
2009年2月27日 発行  
日本デイケア学会事務局  
東京都文京区本郷2-25-14 第1ライオンビル3F  
(有) エム・シー・ミュージズ内  
TEL: 03 - 3813 - 6368  
FAX: 03 - 3813 - 6368  
E-mail: info@daycare.gr.jp  
http://www.daycare.gr.jp

## 日本デイケア学会理事長 就任のご挨拶

窪田 彰

平成20年9月の日本デイケア学会第13回年次大会総会において、新理事長に任命され責任の重さを痛感すると共に、私を推挙して下さった皆様へ感謝いたします。今後、当学会が日本のデイケア臨床の現場に携わる多職種の方々・研究者の方々・行政で働く方々等を含めた幅広い学会として成長して行けるよう、さらに当学会での交流が精神疾患を抱えられた方々及び高齢者の方々の為に、現場に役立つデイケアを生み出して行けるよう、皆様と共に努力したいと思っております。

平成8年に設立された当学会は、精神疾患と高齢者のデイケア双方を対象にして発足しました。そして加藤正明先生が初代理事を勤めて来られました。加藤先生は、昭和33年に市川の国立精神神経センターでデイケアの実験的試みを始められた、日本の精神科デイケアのパイオニアでありました。

その後、加藤先生亡き後を受け継ぎ理事長になられた柏木昭先生は、長年国立精神神経センターでデイケア実践を実践してこられた、やはり日本の精神科デイケアのパイオニアの一人でした。柏木先生は、困難な時代に当学会とデイケアの発展をサポートして来られました。このようなお2人のあとを引き継ぐこととなり、身の引き締まる思いがしております。

今回、私が理事長に任命されたのは、当学会においては初めての選挙制度の下で選出されたものでした。この評議員選挙は、立候補者を立てずに各会員が現会員の中から、適切と思える複数の会員の名前を書いて投票する

という珍しい形式の選挙でした。こうして柏木先生から世代交代を求められたものの、困ったことには新しい会則により、30人の会員に一人の比率で評議員の数を決めることになったため、従来より評議員の数が少なくなりました。さらに、これまで当学会の運営を担ってこられた先生方で、評議員に選出されなかった方も多く、今後の学会運営が危惧されます。どうか、理事・評議員ばかりではなく、会員の皆様にも積極的に役割を担ってくださいますよう、よろしくお願いたします。会員が皆で作る日本デイケア学会にして行きたいと願っております。

さて、精神科デイケアは全国で現在140ヶ所を超えて増加してきました。精神科共同作業所もほぼ同数が全国に生まれており、日本の精神科の地域ケアにおける通所サービスの数は、世界でも有数と言ってよい状況が生まれています。それぞれの質を問えば、様々な問題があるかもしれませんが、日本のデイケアの良さは、おのおのが様々な工夫による独創性を持っており、その自由度が日本の地域ケアの良さとも言えるのではないのでしょうか。そして、デイケアの場が持つ受容性が、精神障害を持つ人々に「病を受け入れる」機会を提供し、再発予防と社会性の回復等に役立っています。デイケアの有効性を明らかにすると共に、現場での新しい活用方法も次々に開発されております。そのような、各地からの経験と研究の成果を持ち寄り、互いに議論し交流できる場の役割を、当学会は果たしてゆかなければなりません。

まずは、全国のデイケア施設の実態調査を実施すると共に、多くの方々に当学会への入会をお勧めしたいと思っております。日本のデイケアの持つ多様性と独創性を、今後もいっそう発展させて行きたいものです。皆様のご協力をお願い申し上げます。(クボタクリニック)

# 日本デイケア学会第14回年次大会 in 沖縄へのお誘い

第14回年次大会長 高江洲 義英

日本デイケア学会第14回年次大会は2009年9月11日(金)12日(土)の両日にわたって、沖縄県宜野湾市(沖縄コンベンションセンター会議棟)に於いて開催される。大会テーマとしては「精神のエコロジーとしてのデイケア活動をめざして—多職種・多機能・多技法連携によるプログラム再考」としてある。全国各地からの参加者をお迎えすべく、南島からみたデイケア活動への検討を準備中である。

40年前のわが国の精神医療では、入院医療が中心であり、外来患者数は病院によりかなりの差はあるが、今日ほどは多くなかった。精神科病院は全国各地に整備されつつあったが、精神科クリニックは、とても少なかったように思う。それでも、いくつかの病院では、外来患者さんに対して、生活療法、料理教室、芸術療法、音楽療法、園芸療法、サイコドラマなどを試行していた。

今日のデイケアの隆盛は、まさに驚きである。絵画、音楽などの各種のプログラムが工夫され、看護師、精神保健福祉士(PSW)、心理士(CP)、作業療法士(OT)、理学療法士(PT)に加えて、芸術療法士(AT)、音楽療法士(MT)、園芸療法士(HT)など、各種の表現技法の専門職が参加している。そこでは、必然的に「多職種による多機能をもち、多技法が工夫されたスタッフ連携」が求められている。さらに医師や心理士、ケースワーカーらによる精神療法、カウンセリングなどとの関連、あるいは多くの集団療法としての治療構造や治療操作の問題などがある。

一口に「デイケア」といっても、「デイ・ナイトケア」「ナイトケア」も含めて、各施設により様々な特色があると思う。多くの報告を聞き、各種の討論、講演、そしてシンポジウムなどを通して、南島からのデイケアへの視点の広がりや深まりを期待したい。

会長講演として「南島の風土とデイケア活動」(高江洲義英、いずみ病院理事長)、基調講演として「デイケアに求められるもの～ユング心理学の視点から～」(山中康

裕、京都大学名誉教授)、教育講演「自殺予防対策の効率化にむけて～沖縄県のデータをもとに～」(近藤毅、琉球大学精神病態医学分野教授)、シンポジウムとして「いまデイケアに求められること」シンポジスト4名、その他ポスター展示や、デモンストレーションブースなど盛りだくさんの企画を検討中である。

全国各地の皆さんからの御支援と御指導を仰ぎ、意義ある大会としていきたい。

(医療法人和泉会いずみ病院理事長)

# 日本デイケア学会第13回大会を終えて

大会実行委員長 斉藤 章佳

日本デイケア学会第13回大会が、平成20年9月19(金)～20日(土)池袋にあるホテルメトロポリタンで、榎本稔大会長(医療法人榎本クリニック理事長)のもとで開催された。大会テーマは、デイケアの変革の時代にふさわしく「デイケアの専門分化～現代社会のニーズにこたえる必要がある～」である。

第一日目は、午前に榎本稔大会長より講演「デイケアの専門分化～現代社会のニーズにこたえる必要がある～」と、教育講演Ⅰは渡邊俊之先生(高崎健康福祉大学)から「高齢者の家族の理解と支援」、教育講演Ⅱでは寺田義弘先生(帝京平成大学)から「精神科臨床における病名と診断～よりよいチームワークのために～」が行われた。

午後は、記念講演としてなだいなだ先生(作家・精神科医)より「こころの時代とは何か」についてご講演いただいた。そして、第一日目を締めくくる形でメインシンポジウム「現代社会のニーズにこたえる必要がある」では、シンポジストにそれぞれ専門分化されたデイケアで活躍されている4人の先生方をお招きした。紙面の都合で詳しく掲載できないのが残念であるが、池淵恵美先生(帝京大学)からは大学病院でのデイケアについて、大嶋正浩先生からは発達障害のデイケアについて、城田晴男先生(帝京平成大学)からはクリニックのデイケアについて、五十嵐良雄先生(メディカルケア虎ノ門)からはう

つ・復職のデイケアについて活発な議論が交わされた。その後の懇親会では、前回大会の北海道大会のよさこいに引けをとらないほどのエネルギーで「東京スクールオブミュージック」の皆様よりゴスペルの歌声を披露していただいた。ゴスペルの余興は反響が大きく、学会終了後参加者より何件か問い合わせをいただいた。

第二日目は、4つの会場で12に専門分化された分科会と一般演題が同時進行で行われ、学術的な議論や日ごろの臨床場面で行っている取り組みなどが紹介された。

A会場では、統合失調症Ⅰ【就労支援】 統合失調症Ⅱ【大学病院のDCと保健所のDCと精神科病院のDCとクリニックのDC】 認知症Ⅰ【一人暮らしの高齢者を地域で支える】 認知症Ⅱ【認知症の人を介護する家族への支援】を行った。

B会場では、思春期【思春期のDC】 薬物依存症【薬物依存症治療ことはじめ】 アルコール【アルコール依

存症のDC】 発達障害【DCにおける発達障害の問題】を行った。

C会場では、ギャンブル【ギャンブル依存症の諸問題】 うつ・復職【うつ・復職のDC】 援助者【援助者の燃えつき】 性依存症【性犯罪及び性依存症者におけるトリートメントについて】を行った。

D会場では、36題の一般演題発表が行われ日ごろの実践が報告された。

次回の日本デイケア学会第14回大会は、筆者自身も大好きな沖縄で「精神のエコロジーとしてのデイケア活動を目指して～他職種・多機能・他技法連携によるプログラム再考～」というテーマで、医療法人いずみ病院高江州義英大会長のもと開催される予定である。大会を企画・運営される大会長と事務局スタッフに期待したい。

(医療法人 新大塚榎本クリニック)

## ● ● 新理事よりひとこと ● ●

### デイケア・デイサービスの新たな発展を願って—副理事長就任のご挨拶—

このたび副理事長に就任することになりました。ご推奨いただいた理事の方々に心より感謝申し上げます。私は本学会が研究会として出発した時から参加をし、最近では学会誌の編集に力を注いで参りました。

精神科デイケアにしる高齢者のデイサービスにしる、座して利用者を待つ時代ではなくなりました。アウトリーチサービス、家族支援、就労援助などさまざまな活動を組み合わせたトータルなサービスが求められています。

新理事長のもと、本学会の発展のために微力ながらお手伝いをさせていただきますので、よろしく願いいたします。また、学会誌の編集も引き続き担当いたしますので、会員の皆様方の積極的な投稿をお待ちしております。さらに、第15回年次大会を2010年9月に仙台で開催いたしますので、あわせてよろしくお願い申し上げます。

(東北福祉大学せんだんホスピタル院長 浅野 弘毅)

### 理事就任に当たって

長くデイケア学会の理事をやってきましたが、学会最初の選挙で選ばれたことで、個人的思いとしては初めて理事として承認されたと受けとめています。近年は、デイケアの実践から遠ざかっていますが、私にとっては大切な場所です。出来事が起きるたびに、悩んだりくたびれたり喜んだり学んだことが懐かしく、関係者が互いに支え合える場であってほしいと願っています。いろんな機会にまた、皆様の新鮮な感動を聞かせていただいて、デイケアのことを一緒に考えていきたいと思っています。

(中部学院大学大学院 松永 宏子)

### 理事就任に当たって

デイケア学会に入ったのは結構前だったと思います。重要な学会と思っていつつ、つい他の仕事と比べて優先順位が後になって、学会参加もあまり熱心でなく、理事に選ばれて恥ずかしく思うところです。今や病院でデイケアをしていないところは少ないくらいで、2008年の日精協の名簿では881病院ですから3/4くらいの病院で行っていることになります。入院させていれば叱られ、デイケアを熱心にして、それをバネに退院を促進しても「こんなに大きなデイケアなんて」とまた叱られ、挙句の果ては「これだけそろったのだから」、「デイサービスと変わらんじゃないか」と言われて安上りのメニューを用意してそちらに追い込まれる。それならデイケア提供サイドは、「デイサービスや地域活動支援センターとは違うサービスをしていますよ」と言えるようであれば太刀打ちできないと思います。このような理論武装に少しでもお手伝いできたらと思っています。

(さわ病院 澤 温)



## 理事就任に当たって

皆様、はじめまして。神戸市で小さな診療所を開業している私などが理事に選ばれることなど青天の霹靂であり、何か申し訳なく感じております。デイケア学会には平成10年頃から参加させていただいており、その頃は大学病院で精神科デイケアの立ち上げに関わっておりました。平成14年に診療所を開業し平成16年より精神科デイケアを行っておりますが、最近では休診にできないため学会への参加もスタッフ任せであり、日程が合えば日帰りでご参加する程度になっております。今後の精神科デイケアの課題として、発達障害の方への関わりをどうするか、また、精神科ショートケアをいかに活用するか、などを考えております。理事の仕事として何をさせていただけば良いのか全くわかりませんが、今後のデイケアの発展に少しでもお役に立てればと思いますので宜しく御願いたします。(福島神経科クリニック 福島 正人)

## デイケアの専門分化—現代社会のニーズに応える必要がある—

日本社会は高度経済成長を遂げ、さらにバブル経済となった。平成期に入り、バブル崩壊となり、そして現在、世界的な大不況、デプレッションの時代に陥った。先行き不透明の霧の中に迷いこみ、人々は生き甲斐を喪失し、空洞化した心を持ち、心のバランスを失ってしまっている。社会変動とともに精神医療も大きく変化してきている。入院治療中心から外来通院治療、デイケア治療へと転換を遂げてきている。疾病構造も統合失調症の定型例から境界例・人格障害・行動障害型へと推移し、さまざまなタイプのうつ病圏や神経症圏の病態像が増え、子ども・思春期・青年期と老年期の相談が増加してきている。さらにさまざまなアディクション、人間関係の葛藤、人生相談も増加してきている。現代社会の(光と)陰の部分が大きくクローズアップされてきており、現代社会のニーズに応えるべく、その受け皿(治療)としてのさまざまな専門的デイケア治療が必要とされてきている。デイケア治療は、彼らが社会的、経済的、精神的に自立した生活を送り、自己実現に向けて生き甲斐を達成すべく旅立っていくよう支援するのであるが、これまで20年以上、実施・運営されてきている中で、彼らの居場所、溜まり場となってマンネリ化し、出口のない閉塞状態となってきている。

社会復帰のかけ声は高いが、現実問題として、社会の受け皿は乏しく、福祉、住居、職業、地域社会、法律等、社会的偏見の眼は厳しく、社会の壁は高い。今後、デイケア治療は運営方法、技術革新をすすめ、その方向性を模索し、発見していく必要がある。(榎本クリニック 榎本 稔)

## 理事就任に当たって

このたび理事に就任しました栗原です。大学で心理学を学び、卒業後20数年間、都内数カ所のデイケアの非常勤職員のかげもちで働いてきました。デイケア学会には評議員として、また、研修委員として関わってきました。研修会等で発題させて頂いた事も何度かありましたが、そういう時には、デイケア利用者にとってデイケアはどのような場所なのか、また、どのような場所である事が利用者にとってプラスになるのかを考えて意見を述べてきました。これからも、皆様のご意見をうかがいながら、充実した研修を企画し、デイケアをめぐる検討を深めていきたいと考えています。どうぞよろしく御願いたします。(栗原 毅)

## 学会の組織委員長を拝命して

しばらく当学会から遠ざかっていたが、ひょんなことから学会理事に返り咲き「組織委員長」を拝命することになった。しかし、さて「組織委員会」とは、何をすれば良いのか？まさか、次期年次大会の組織化が委員会に一任されている訳でもあるまい。すぐに思いつくのは、学会員の増加を図るために、ホームページの充実やリーフレットの配付等、広報戦略を展開するということだが、それはむしろ、広報委員会の管掌領域だろうか？ はて？

自らの臨床体験に照らして「組織」を振り返ると、経営戦略の不在で現場のスタッフは悩まされてきた。「経営」とは、単なる目先の運営や金勘定ではなく、組織がひとつの目標に向かって現実的課題を遂行していくときの、一定の理念とビジョンをもったマネジメント・プロセスである。経営戦略が描けない組織は、目標を見失い構成員を疲弊させる。経営戦略本部としての組織委員会？ はて？ ちょっと違うような…？ 誰か、教えて下さい。(日本社会事業大学大学院 古屋 龍太)

## 理事就任に当たって

新しく理事に就任しました。よろしく御願いたします。約30年間精神科デイケアに関与していましたが、この5年間は精神保健福祉の現場から離れたことにより、専門職としての自己点検の評価軸が揺れています。デイケアは本来「地域生活支援」を目的としながら、医療と福祉の狭間で重要な役割を果たしてきました。個別支援とグループに関与する能力と、地域生活状況との関連性を考慮する上で、デイケアのスタッフには高い専門性が求められます。そして、デイケアにおける集団力動に着目し、メンバー同士の支え合いと、そこでのスタッフのありようについての検討が必要であると考えます。

今後、理事会の末席を汚すこととなりますが、デイケアが認知症高齢者や障害者の方々の地域生活支援の砦になるために、微力ながら努力していきたいと思っております。(龍谷大学 荒田 寛)

## 就任にあたって

これからの精神科医療を考えると、現在は脳科学の発展、製薬資本の攻勢に押されて、心理社会的な視点、人格発達や人格構造の病態への関心が薄れていることは否めません。口では社会生活技能や、転移・逆転移を踏まえた治療者患者関係の必要性が唱えられますが、実際には、いかに薬を使うかに追われているのが現状で、今の精神科医療のジレンマと言えるでしょう。たしかに社会のあいまいさ、不確かさのなかで、人間存在そのものに徒手空拳で立ち向かわなければならぬ側面が精神科医療にはありますが、社会精神医学の淵源にある“場・環境の考え”を大切にしていきたいと思います。そしてデイケアが私たちの“場”の1つになることができればと願っています。

(福岡大学医学部精神医学教室 西村 良二)

## 理事就任に思う

私が勤務する精神科単科の病院は、平成3年からデイケアを開始し、平成15年からデイナイトケアも始めた。開始した当初は、1日の平均参加者は、10名足らずであったが、現在では、平均60名~70名が参加している。最近では、長期入院者や中高年の対象者だけでなく、若年者や自閉症などの障害を持つ人、高次脳機能障害の方など、病気も障害も多種多様になってきている。

障害者自立支援法が施行され、精神障害者の地域移行も益々進められる中で、相談支援事業所・地域活動支援センターも僅かながら、増えてきている。福祉も医療も欠かすことが出来ない彼らにとって、我々も地域ネットワークを構築し、一人ひとりにあったサービスを提供し、自らの力でどんな生活をしたのかを選べるように支援する必要がある。

彼らの地域生活支援を実践する我々は、目的も憩の場としたい人から、就労を目指したい人まで幅広く、利用されている医療機関の精神科デイケアの目的・役割を現場でも再考する時期だと思っています。

(京ヶ峰岡田病院 竹中 秀彦)

## 日本デイケア学会理事就任にあたり

この度、本学会の理事の末席に参加させて頂くことになりました、北海道旭川市の直江クリニックの直江です。まず、本学会においてスタッフと学ぶ機会を得られていることに感謝いたします。私は、24年前に研修病院にてデイケアを2年間学び、その後14年前にクリニックを開設し、クリニック併設型大規模デイケアを開始して11年目になりました。当時は道内クリニックで初めての試みでしたので、文献を集めながら思考錯誤の毎日でした。当初は通院患者の居場所の保障や対人交流の活性化により治療効果を高める目標で始めました。その後、従来の理念を継続しながら生活相談、就労支援、訪問看護、及び地域施設との連携などを取り入れながら現在に至っております。今後は、さらに柔軟な治療姿勢を発展させたいと考えており、同時に本学会へ微力ながら参加継続をしたいと思っていますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

(直江クリニック 直江 裕之)

## 学会理事就任にあたっての抱負

なかなか理事としての任務が果たせずに恐縮しています。それにしても、関連学会の数があまりにも多すぎるとは思いませんか？ わが国の経緯があって、もっともであるとも理解しているのですが、そろそろ統合することを検討したいものです。

制度や資源の断片化に対して、各国ともサービスの統合に工夫を重ねています。わが国だけは、いまもって新たな法律や目新しい職務を作り、中心となるべき職務や機関の金が削られるばかりです。利用者にとってみると、メニューは多様でもひとつとして主食がない有様です。

サービスの統合のためには、専門家側も統合されるべきでしょう。内科や外科の学会も次第に大会の合同開催をするようになりました。関連学会がひとつの週に集合するなんていいですね。

(日本福祉大学 野中 猛)

## 理事就任と年次大会

日本デイケア学会には、その創設以来、協力してきているつもりだが、いくつかの事情で、なかなか参加する機会がなかった。それが、このたび第14回年次大会を沖縄で引き受けることになった。私はその任にあらずと、何度も辞退したつもりだが、60歳を過ぎて判断力が弱った拍子に、いつの間にか大会を引き受けてしまった。それからが大変で、病院のスタッフをはじめ、県内の各病院、関連施設、大学など、さらに県外の諸先生方との連絡など、各方面に多大な迷惑をかけている。会員の皆様には申し訳ないが、迅速な対応ができていないことをお詫びする。

引き受けた以上、一理事としてそして大会長として全力を傾注するつもりである。日頃から御世話になるばかりで、御手伝いの欠如していた分を、せめてもの罪滅ぼしとして働かせていただきたい。沖縄は芸能と園芸の島でデイケアプログラムにこと欠かない。いくらかでもお土産を差し上げたい。

(沖縄県 医療法人和泉会 いずみ病院理事長 高江洲 義英)

# 日本デイケア学会 第14回年次大会のご案内

大会テーマ

精神のエコロジーとしてのデイケア活動をめざして  
～多職種・多機能・多技法連携によるプログラム再考～

大会長

高江洲 義英 (医療法人和泉会いずみ病院理事長)

大会URL

<http://www.jpccd14.com>

大会ホームページは近日中に開設予定です。詳細はそちらをご参照下さい。  
なお大会ホームページ開設後は、いずみ病院ホームページからもリンクできるようになります。

会期

平成21年9月11日(金)・12日(土)

会場

沖縄コンベンションセンター・会議棟

〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜 4 丁目 3 番 1 号 TEL:098-898-3000

## プログラム

大会長講演

「南島の風土とデイケア活動」

高江洲 義英 (医療法人和泉会いずみ病院理事長)

基調講演

「デイケアに求められるもの～ユング心理学の視点から～」

山中 康裕 (京都大学名誉教授・浜松大学大学院教授・医学博士)

教育講演

「自殺予防対策の効率化にむけて  
～沖縄県のデータをもとに～」

近藤 毅 (琉球大学医学部精神病態医学分野教授)

メインシンポジウム

「いまデイケアに求められていること  
～多機能を生かしたプログラムの再考～」

シンポジスト●仲本 晴男 (沖縄県立総合精神保健福祉センター所長)

知念 襄二 (福の木診療所所長・沖縄県外来精神科医会会長)

佐々木裕光 (医療法人恵愛会 福間病院院長)

南風原 泰 (医療法人栗山会 飯田病院精神科科長)

座長●高江洲義英 (医療法人和泉会いずみ病院理事長)

ミニシンポジウム①(認知症)

「今後の認知症デイケアの向かうところ」

ミニシンポジウム②(精神科)

「就労支援」

一般演題

※上記内容は変更になる場合があります。ご了承ください。

日本デイケア学会 第14回年次大会沖縄大会事務局

〒904-2205 沖縄県うるま市栄野比 1150 医療法人和泉会 いずみ病院

担当：岸本 正、比嘉 俊江、玉城 博一

TEL：098-972-7788 FAX：098-972-7319 mail：okinawa-daycare14@jpccd14.com

※事前のお問合せがありましたらこちらまでお願い致します。

## 演題募集について

日本デイケア学会 第14回年次大会では、デイケアに関する演題を広く募集します。

演題および抄録原稿の締切日は、平成21年4月30日(木)までを予定しております。演題を申し込まれる方は、大会ホームページの演題募集をご確認下さい。抄録原稿作成などの詳細についても大会ホームページをご参照下さい。

### 《募集要項》

#### 口述発表

- 演題発表は口述 1 演題につき質疑応答を含め15分を予定しております(発表は12分以内)。
- 口述発表は、口述のみ、または PC プレゼンテーション (MicrosoftPowerPoint) を原則と致します。  
(スライド・OHP等の準備は致しません。またPCプレゼンテーションはWindowsXPまでに限らせて頂きます。パワーポイント使用時の動画・音声使用は不可ですのでご注意ください)

#### ポスター発表

- 演題発表はポスター 1 演題 6 分、質疑応答を 4 分予定しております。
- 掲示用スペースとして横 (90cm)、縦 (140cm) のスペースを用意します。  
※ 1 演題につき 1 スペースとして作成して下さい。  
① 演題番号は大会事務局で作成し、貼付致します。  
② 演題及び施設名と発表者名 (横 70cm×縦 20cm) は図のように貼付して下さい。  
以下本文 (横 84cm×縦 120cm) を貼付して下さい。  
③ 文字や図表の大きさは、2 m離れた位置からもはっきり見えるようにして下さい。  
④ 画鋲などは大会事務局で準備します。その他必要な物については大会事務局にお問い合わせください。





# 日本デイケア学会役員

理事長：窪田 彰

副理事長：浅野弘毅、松永宏子

理事：荒田 寛、池淵恵美、榎本 稔、柏木 昭、栗原 毅、佐々木裕光、澤 温、関 健、高江洲義英、竹中秀彦、  
谷山純子、直江裕之、西村良二、野中 猛、原 敬造、福島正人、古屋龍太

監事：齋藤和子、弘末明良

事務局長：小野寺敦志

評議員(地区別、五十音順)：

北海道・東北地区●浅野弘毅(DR)、下出道弘(DR)、直江裕之(DR)、中野英子(PSW)、原 敬造(DR)

関東地区●浅井邦彦(DR)、池淵恵美(DR)、榎本 稔(DR)、柏木 昭(PSW)、窪田 彰(DR)、栗原 毅(心理)、  
佐藤 妙(PSW)、野中 猛(DR)、古屋龍太(PSW)、松永宏子(PSW)

中部地区●竹中秀彦(PSW)、福与秀文(PSW)

北陸・信越地区●岩尾 貢(SW)、小田良光(PSW)、関 健(DR)

近畿地区●荒田 寛(PSW)、出田俊三(心理)、澤 温(DR)、福島正人(DR)

中国・四国地区●大森文太郎(DR)、谷山純子(DR)、津尾儀典(DR)

九州地区●河野耕三(DR)、佐々木裕光(DR)、高江洲義英(DR)、西村良二(DR)

委員会

組織委員会委員長：古屋龍太

編集委員会委員長：浅野弘毅

広報委員会委員長：松永宏子

調査研究委員会委員長：佐々木裕光

研修委員会委員長：栗原 毅

## 日本デイケア学会入会申込みについて

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更され、現在約1,000名の会員がおり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めております。

1. 入会申込書 入会申込書、入会案内、会則、および郵便振込用紙をお送りいたしますので、下記事務局までご連絡ください。

2. 入会金および年会費

正会員：入会金 1,000円 + 年会費 8,000円 = 9,000円

団体会員：3名までは、入会金 5,000円 + 年会費 20,000円 = 25,000円

(3名を越えるときは、1名につき年会費 5,000円を加算してください)

3. 資格(会則の一部を引用します)

正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。

団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。

4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-25-14 第1ライトビル3F (有)エム・シー・ミュージズ内

日本デイケア学会事務局

TEL&FAX:03-3813-6368

E-mail:info@daycare.gr.jp

URL:http://www.daycare.gr.jp

----- キリトリ線 (ご記入いただき、郵送あるいは FAX で事務局までお送り下さい。) -----

### 入会申込書(正会員用)

申込日 平成 年 月 日

氏名			性別	男・女	生年月日	T・S H	年	月	日

職種			所属先名称 (勤務先)		
----	--	--	----------------	--	--

所属先所在地	〒			電話番号	( )
--------	---	--	--	------	-----